

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>(1) 学力向上進学重点校エントリー校、SSH 指定校にふさわしい生徒の学習希望や進学希望に応える教育課程の編成</p> <p>(2) 学習効果を高める ICT を活用した教育の開発と提供</p> <p>(3) SSH 教育の推進及び成果の発信</p> <p>(4) グローバル人材の育成</p>	<p>① 学力向上進学重点校エントリー校、SSH 指定校にふさわしい新学習指導要領に基づく教育課程の編成</p> <p>② ICT を利活用した効果的な教育方法の組織的な開発研究と共有</p> <p>③ 探究活動の研究開発や成果発表機会拡大及び国内外の教育機関との教育交流の推進</p> <p>④ 多様な文化や価値観を尊重する態度を育成するとともに、交流の機会を創出し、国際性を培う。また、外部交流を増やす。</p>	<p>① 職員研修を通して課題を整理し、カリキュラム・マネジメントの視点に立った教育課程編成作業を進める。併せて授業改善の充実を図り、共有する。</p> <p>② 課題の配信・提出、オンライン授業等 ICT 活用法を共有し、授業の質の向上を図る。</p> <p>③ 生徒の成果発表機会を充実させ、全教員が探究活動支援に積極関与できるように研修を実施する。</p> <p>④ 探究活動内に英語での表現を取り入れ、国際交流やコンテストなどへの参加で、異文化理解を深め、実践的英語運用能力の向上を図る。</p>	<p>① 課題を整理し、SSH 指定校・学力向上進学重点校エントリー校に相応しい教育課程編成ができたか。</p> <p>② 各教科で目標達成のための具体策を確立し、適切に ICT を活用して授業研究に臨めたか。オンラインを用いた課題配信・生徒の意見共有が進んだか。</p> <p>③ 資格試験やコンテスト等への参加の機会を拡大できたか。</p> <p>④ 探究活動に英語での活動を取り込めたか。国際交流・異文化理解を進められたか。</p>	<p>① 育みたい生徒像実現に向けた教育課程を編成した。年2回、教科横断的授業を実施。授業改善を進めた。</p> <p>② 分散登校時には、使用教室や時間割の検討を密に行い、ICT 担当の協力し、登校対面授業と自宅オンライン授業の併用を円滑に行い、感染が急拡大した時にも、自宅療養や登校を控える生徒に対し、常時オンライン授業配信を行った。</p> <p>③ 探究的な学びの職員研修を実施。科学の甲子園や物理チャレンジ等、外部コンテストに生徒が参加した。</p> <p>④ 探究活動成果発表会に留学生を招き、英語でのポスター発表や海外高校生とオンライン交流を実施した。</p>	<p>① 新指導要領実施に向けて、指導と評価が一体となった授業展開について、教員間の共通認識を図る。</p> <p>② 様々な学習形態に対応できるよう、各教科で教材の検討や準備を継続していく。今後も短縮授業など、十分な時間が取れないことが想定され、授業内容の精選や効率的な授業展開の工夫が必要である。</p> <p>③ SSH 部活動を発足させ、先進的取組を行う生徒による「メラーボプロジェクト」の一層の伸展を図る。</p> <p>④ 台湾国立新竹高級中学との交流を共同研究に繋げる。次年度の海外研修実施計画を立て、オンライン交流を継続する。</p>	<p>① 教育課程編成や授業計画など工夫されている。特に SSH 指定や県の理数教育推進・進学重点校エントリーなど多くの期待の中、苦勞して作り上げている様子が窺える。</p> <p>② コロナウイルスの影響で分散登校、オンライン授業等と通常授業が行われず生徒、先生ともに大変だったと思う。コロナウイルスは直ぐに終息とはいかないと思うので、今年の経験を今後授業等に生かしてもらいたい。</p> <p>③ 引き続き、外部コンテストへの参加や交流を通して、「SSH 教育推進」を発信しつつ大いに宣伝し、一層の進展を期待する。</p> <p>④ 海外の高校生との交流は非常に有意義だと思う。オンライン交流はお互いの文化や課題などを知る貴重な体験なので、共同研究など今後の発展を楽しみにしている。</p>		
2 生徒指導・支援	<p>(1) 自他を尊重し、多様性を認める社会を担う自立した人材育成</p> <p>(2) 文武両道の堅持</p> <p>(3) 行事、部活動と学習面の高度な両立を目指す生徒のバランスの取れた学校生活の支援体制の充実と関係機関との連携</p>	<p>① 生徒一人ひとりが、自他を敬愛し、礼儀を重んじ、自由と責任を弁えた行動をとれる姿勢や態度を育てる。</p> <p>② 学力向上進学重点校エントリー校における学びと行事や部活動等を両立し得る自律力の育成を図る。</p> <p>③ 校内の教育支援体制強化、支援力向上と共に、外部機関と関係構築する。</p>	<p>① 地域との協調を重んじ、マナーと社会性ある行動を身につけるため、通学指導を毎月行う。</p> <p>② 生徒の自主性や創造性を尊重し、自ら課題を発見、解決し運営できるように指導する。</p> <p>③ 心身共に健康的な学校生活が実現できるよう校内外の教育相談機能を活用した支援を行う。支援力を高める研修の実施</p>	<p>① 生徒が責任と社会性ある行動を取り、地域からの苦情等が減少したか。</p> <p>② トラブルなく円滑な学校行事、部活動等が行えたか。また、生徒の活動内容満足度が80%以上か。</p> <p>③ 支援教育校内連絡会を年3回、支援教育相談担当者会を月1回実施し、早期対応できたか。</p>	<p>① 基本的な通学マナーについて、繰り返し周知する。</p> <p>② 生徒会活動の活性化と行事・部活動と学習の両立を図る。事故防止に努め、充実した活動に向け支援する。</p> <p>③ 学習面の不安からくる不適応など生徒の心身の状況を早期に見極め対策やケアを行う。</p>	<p>① 自由と責任は表裏一体であるということが身に付くと、要求だけではなく、相手や周囲の状況を的確に判断できる社会人に育ってくれると思われる。通学マナーからは非学んで欲しい。</p> <p>② コロナ禍で、諸活動が制約を受ける中で、生徒と対話し生徒に考えさせて、できる限りのことを実践していることに敬服し感謝する。</p> <p>③ 「文武両道」何事にも全力で打ち込める精神力があつてこそ結果が出る事を知って欲しい。</p>			
3 進路指導・支援	<p>(1) 学力向上進学重点校エントリー校としての難関大学、スー</p>	<p>① 正確でタイムリーな情報提供及び3年間の成長過程に合わせ</p>	<p>① 探究活動、進路ガイダンス等で上級学校等が求める学生像を理解する</p>	<p>① 進路研修会を実施し、生徒一人ひとりのデータ等の蓄積から</p>	<p>① 「出願指導検討会」では、個について多面的に検討し、指導・助言資</p>	<p>① 出願指導検討会は進路指導の意義や効果があるが、継続性の観点から</p>	<p>① 私学3教科型から国公立志向の5教科型への指導をしていると聞いたが、大学入学共通テストの出願</p>		

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	パーグローバル大学等への進学に向けた組織的な進路支援体制の構築と推進 (2)高い次元での自己実現を目指す生徒の学びに向かう力・キャリア能力を高めるガイダンスの充実と学習環境の整備	た多様なキャリア教育の構築と推進。 ①既存の取組における科学的、論理的な思考力、グローバルな視点の獲得への観点・取組の強化。 ①教員一人ひとりの進路指導力を高める研修等の充実。 ②セルフガイダンス力を高める機会の提供や環境の充実。	と共に学際的な興味・関心を喚起する支援を行う。 ①大学入学共通テストや高大接続に係る研修を実施し情報共有する。 ①②大学や企業等と連携し、深い知識や高いレベルの技術に触れる機会を提供し、自律的な学習を促す。 ②講習等の学習環境整備と内容の充実を図る。 ②進路に資する資料を提供する。	具体的な進路指導に繋がったか。 ①ガイダンスや面談指導を適宜実施できたか。 ②生徒が上級学校等の学問や研究、またグローバル企業等の技術に触れる機会を設けたか。 ②夏期講習、土曜講習の受講者数を増やすことができたか。 ②生徒が必要とする資料を提供できたか。	料を作成した。 ①「社会人出張講義」や「大学教授等による学部学科説明会」等、学問入門・研究に関し学ぶ機会を設け進路学習を深めた。 ②夏期講習平均受講者数の合計は682名(昨年度854名)。今年度から新たに受講を希望した生徒数を集計することにした。合計は423名であった。土曜講習平均受講者数合計は46名(昨年度123名)。受講を希望した生徒数の合計は54名だった。	工夫が必要である。 ②学習面と部活動や学校行事との両立が、本校としての最大目標である。今後も生徒が受講しやすい環境を整備するとともに、各教科と連携して、生徒のニーズに合った科目設定や教員の負担等も考慮した柔軟な講座時期・回数設定などを検討していく。	型の推移からでは、顕著な傾向は窺えない。現実はどうなのか。評価は？ ①「出願指導検討会」の利便性は高いが、指導側の負担が大きそうである。既卒者の模範例などが作成例としてあるだけでもいいと思われる。 ①大学教授、社会人、卒業生などさまざまな人に出会うことは自分の夢を見つけるきっかけともなるので今後とも継続してもらいたい。 ②進路支援体制のひとつとして、大学や企業等との連携、社会人出張講義、夏期講習、土曜講習これらの取り組みは是非継続してもらいたい。		
4 地域等との協働	(1)外部人材の活用やSSHの取組成果等の小中学校等への発信と提供 (2)ホームページによる教育活動、教育成果の発信をはじめとする広報活動の充実 (3)本校教育活動のネットワークの拡大	①生徒による小中学校等への教育提供や外部機関との連携の場の創出 ②ホームページの充実と、迅速で適切な情報提供のための体制の整備 ③地域や同窓会、PTA、等の組織と連携した安全教育・防災教育等の取組の推進 ③学校運営協議会の評価の活用	①成果発表会や科学教室の開催等地域の小・中学生が科学に興味を持てるような事業を行う。生徒探究活動やキャリア教育を支援する企業・人材を開拓する。 ②学校行事やホームページを用いて中学生とその保護者へスムーズな情報発信を行う。 ③地元自治会やPTAと連携した防災訓練等を実施する。	①参加者アンケートの回答から満足していることがうかがえたか。教育活動を支援していただける企業等を開拓できたか。 ②ホームページにわかりやすい情報提供ができたか。 ③地元自治会やPTAと連携した防災訓練等を実施できたか。	①学校説明会やホームページ、動画配信により、教育活動や生徒の様子を発信した。学校説明会におけるアンケートの結果、回答者の約87%から好意的な回答を得られた。SDGs Daysでは外部人材を活用して、学年別のプログラムを実施した。 ②CMS移行後のホームページ更新の所掌を整理した。 ③校内避難訓練のみ実施した。	①学校説明会や見学の予約が取りにくい状況がある。職員の働き方に配慮した適切な実施方法を引き続き検討する。今後、状況が許せば地域の小・中学生を対象とした科学教室等を企画する。 ②行事や部活動の結果など、中学生が学校生活の具体を感じられるよう、こまめな更新を呼びかける。 ③今後、合同訓練の可能性を探る。	①ホームページの所掌の整理など完全がみられる。特に多摩高校に関心のある方が見ていることを意識して今後もリアルタイムの更新を望む。 ②教職員の負担軽減のためにも、学校活動や部活動の詳細などホームページの活用を増やすことを検討した方がよい。 ③コロナウイルス感染症の影響で地域との交流の場が少なかったことは残念である。今後状況が好転することを期待し、交流を継続したい。 ③PTAは自転車点検等で生徒の安全確保を図る。		
5 学校管理 学校運営	(1)企画会議の機能の拡大による職員の経営参画意識の向上と人材育成 (2)教員が教育に係る時間を確保する働き方改革の推進 (3)計画的・効率的で適正な予算執行と学校環境の整備 (4)事故不祥事防止の徹底	①企画会議と各組織・職員との双方向情報共有を深め、全職員の学校経営参画意識を高める。 ②ICTの利活用を組織的に推進し、会議や資料作成・配付などの効率化を推進する。 ③工事に伴う教育活動及び安全確保を図る。 ④事故防止会議や研修を計画的効果的に行う。	①企画会議の内容を迅速に職員全体に周知することで課題を共有し、課題に応じた人材招集、意見聴取を行う。 ③外構工事に伴い、授業、行事、部活動等が円滑に行えるよう調整する。	①企画会議を中心にグループ等の連携を図り、喫緊の課題を解決するための組織体制を確立できたか。 ②仕事の効率化が図られたか。 ③各教科、生徒会との協議連携に努めて、工事期間の生徒の活動が安全に行われたか。	①職員が閲覧できるよう議事録を作成し、情報共有しながら、全職員の学校経営参画意識の向上を図った。 ②職員会議資料の電子化、業務精選・業務移管、「たまカエルの日」を制定し、業務効率化や働き方改革を推進した。 ③教育委員会等と早期着工に向けて複数回協議した。	①情報共有を密に行い、職員の学校経営参画意識向上を目指す。1人1台パソコンの活用について検討を継続する。 ②引き続き、企画会議や衛生委員会を中心に、働き方改革や業務の効率化を推進する。 ③今年度末の着工が決定したので、工事期間中の生徒の安全対策について万全を期す。	②特に校務のICT化が進む中、特定の教員に負担が行かないような工夫をお願いする。 ②先生方の働く環境を整えることもぜひ優先的に行っていただきたい。 ③外構工事は着工が決定し工事が開始されるが、生徒および周辺住民への安全・環境対策に気を配ってもらいたい。		

